

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和 6年 12月 17日

協議会名：長野市公共交通活性化・再生協議会

評価対象事業名：地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
長野市	R5.10～R6.3 中条線 （中条地区） R6.4～R6.9 中条・信州新町線 （中条地区・信州新町地区）	(1)前回の事業評価結果 実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。 (2)反映状況 中条線を運行している中条地域とともに隣接する信州新町地域の人口減少も把握し、それぞれの地域で運行している路線の利用・移動実態を地区役員等と共有した。 また、支所、地区役員等と協議を行い、現状の運行方法、運行経路、運行便数の適切性について検討を行った。 その結果、需要が地域内に点在しており、従来の定時定路線型の運行方法では、収支率および利用率ともに維持することが困難であることから、両地域で市が運行しているすべての路線をオンデマンド交通システムを利用した区域型運行に一本化し、信州新町地域と運行エリアを統合して、中条・信州新町線に移行した。 運行方法の変更にあたっては、利用者の利便性を損なわないように運行時間帯や乗降場所を再検討し、小中学生の登下校については一括予約方式とした。 また、地区説明会やチラシの配布のほか、ホームページでの情報発信など、利用促進に向けた取り組みを実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員7,700人以上確保する目標に対し、令和6年度実績は14,394人であった。 輸送人員の目標値を達成し、前年度（1,058人）比でも大幅な増加となった。 定時定路線ではまかないきれない地域内に点在する需要に対して、需要に応じた柔軟な運行に切り替えたことから、利用者の生活の必要な時間帯に移動支援が行うことができた。 また、小中学生の登下校に対応したことにより、通学利用者の逸走を抑制することができた。 ただし、この増加は運行方式の変更による定時定路線型路線からの移行分や、隣接地域との運行エリア統合によるものが中心であり、運行開始当初の体験的な利用分も含まれていると考えられる。	引き続き地区人口の減少状況を年齢階層ごとに把握するとともに、利用需要が生じている場所を把握し、地域公共交通計画に基づき利用実態データを整理する。 人口減少を考慮した利用者数の維持だけでなく、目的とする施設および移動時間帯を把握することで、利用者の生活に必要な移動目的が達成できているか確認する。 持続可能性も考慮しつつ、適切な乗降ポイントの設定と運行時間帯等の設定を地域住民と連携しながら検討する。 これらを円滑に進めるため、引き続き地区役員等と情報共有を図っていく。
アルピコタクシー株式会社	篠ノ井共和線 川中島駅～Aコープ・篠ノ井店～篠ノ井病院前	(1)前回の事業評価結果 実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。 (2)反映状況 当該地区の人口減少を把握し、各路線の移動実態を地区役員等と共有した。 支所、地区役員等と協議を行い、現状の運行方法、運行経路、運行便数の適切性について検討を行った。 乗降調査を実施し、川中島駅やAコープ・篠ノ井店、篠ノ井病院への接続が主な目的で、時間帯により大きく変動するが、概ね全ての便に利用者がいることが分かった。 多くの人に利用してもらうため、利用促進を目的としたチラシの配布やホームページでの情報発信などを実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員1,400人以上確保する目標に対し、令和6年度実績は1,453人であった。輸送人員の目標値は達成したが、前年度（1,500人）比では若干減少した。 なお、前年度比で若干減少しているものの、目標値を達成していることは、本路線の利用者が川中島駅やAコープ・篠ノ井店、篠ノ井病院など生活に必要な施設にアクセスできていることが大きく影響していると考えられる。 また、コロナ禍が収束し、利用状況がやや持ち直してきていることも目標値を達成した要因と考えられる。	利用が時間帯により大きく変動していることから、利用者の移動利便性を高めるために、引き続き当該路線の移動実態を利用者の年齢階層も合わせて把握し、必要に応じて適切な運行時刻への見直しを検討する。 また、移動実態の状況を路線沿線住民と共有するとともに、利用率および収支率の向上により当該路線を維持する必要があることを十分に説明する。 引き続き沿線地区役員や事業者と連携し、利用者数を維持できるよう利用促進を図る。
アルピコタクシー株式会社	安茂里線 安茂里駅～安茂里支所～長野ターミナル	(1)前回の事業評価結果 実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。 (2)反映状況 当該地区の人口減少を把握し、各路線の移動実態を地区役員等と共有した。 支所、地区役員等と協議を行い、現状の運行方法、運行経路、運行便数の適切性について検討を行った。 乗降調査を実施し、安茂里駅や長野ターミナルへの接続が主な目的で、時間帯により大きく変動するが、概ね全ての便に利用者がいることが分かった。 多くの人に利用してもらうため、利用促進を目的としたチラシの配布やホームページでの情報発信などを実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員3,300人以上確保する目標に対し、令和6年度実績は3,342人であった。輸送人員の目標値を達成し、前年度（3,118人）比でも若干増加した。 これは、利用実態調査に基づき、安茂里駅や長野ターミナルへの接続を適切に行っているためと考えられる。 また、コロナ禍が収束し、利用状況がやや持ち直してきていると考えられる。	利用が時間帯により大きく変動していることから、利用者の移動利便性を高めるために、引き続き当該路線の移動実態を利用者の年齢階層も合わせて把握し、必要に応じて適切な運行時刻への見直しを検討する。 また、移動実態の状況を路線沿線住民と共有するとともに、利用率および収支率の向上により当該路線を維持する必要があることを十分に説明する。 引き続き沿線地区役員や事業者と連携し、利用者数を維持できるよう利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6年 12月 17日

協議会名:	長野市公共交通活性化・再生協議会
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	長野市は本州の中央部長野県の北部に位置し、北アルプスに源を発する犀川の扇状地と千曲川の沖積地によって形成された肥沃な長野盆地に位置し、平安の昔から「三国一の霊場」善光寺の門前町として日本全国に親しまれてきた。面積は834.81平方キロメートル、人口は363,343人(令和6年4月1日時点)。 モータリゼーションの進展や少子高齢化、人口減少、さらには運転免許証の保有率の増加等により、公共交通利用者数は20年前と比較すると半数以下にまで減少し、その減少に歯止めがかからず、不採算路線の見直しなど、公共交通を取り巻く環境は大変厳しい状況にある。 この事業により、高齢者等の日常生活の維持や学生の通学に必要な不可欠な移動手段を確保できる。また、交通空白地域や交通不便地域を解消できるだけでなく、支線と幹線を適切な結節点でつなぐことで公共交通ネットワークが形成され、長野市が掲げるコンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりに貢献できる。